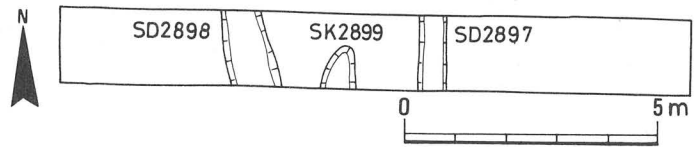


田中宮推定地周辺の調査

(A調査地 昭和55年6月)

(B調査地 昭和55年6月～7月)

田中宮及び田中廃寺
推定地の周辺で、2カ
所の小規模な発掘調査
を行った。



B調査地 遺構配置図 (1:150)

A調査地 調査地は、法満寺の北西約200mの畑地である。調査の結果、遺構は存在せず、厚さ約0.8mの耕土・床土下は2.5m以上にわたって砂礫層が続いている。ただし、床土からは7世紀代の土器が出土しており、この付近に田中宮或いは田中廃寺に関連した遺構の存在する可能性が大きい。

B調査地 (第29-4次) 調査地は、法満寺の北東250mの水田で、藤原京の朱雀大路西側溝の存在が予測される位置にある。ここでは、図示したように、耕土・床土下にある砂礫層の上面で、南北溝と土壌を検出した。SD2897は幅1m、深さ0.2m、SD2898は幅1.5m、深さ0.15mである。SK2899は深さ0.2m前後の浅い土壌である。先述したように、調査地には朱雀大路西側溝の存在が予測されており、今回検出した南北溝のうちいずれかが西側溝である可能性も残る。しかし、両溝からの出土遺物が皆無のため、年代の決め手を欠くことや溝の規模が既知の朱雀大路西側溝規模より小さい点を考慮すると、両溝とも朱雀大路西側溝とは断定し難い。今後の周辺地域の調査に待ちたい。



調査地位置図 (1:4000)